２０１３年　４月１２日

公益財団法人　笹川記念保健協力財団
理事長　紀　伊　國　　献　三　殿

施 設 名　独立行政法人国立病院機構西群馬病院

代 表 者 院 長　　斎　藤　龍　生

２０１２年度ホスピス緩和ケアドクター養成研究事業助成
に 係 る 報 告 書 の 提 出 に つ い て

標記について、下記のとおり報告いたします。

記

１．研究・研修事業　　２０１２年度ホスピス緩和ケアドクター養成研究事業

２．期　　間　　２０１２年　５月　１日　～　２０１３年　４月３０日

３．報　　告　　書　　別紙のとおり

2012年度ホスピス緩和ケアドクター養成研究助成に係る報告

西群馬病院　緩和ケア科　小林　剛

I.　事業の目的・方法

わが国では、現在、がんによる死亡が年間30万人を超え、死因の1位となっており、今後、高齢化がさらに進むことからがん医療の充実はますます重要となってきている。平成19年4月に「がん対策基本法」が施行され、その中でがん治療の向上のみならず、緩和ケアの重要性も明確に打ち出されているが、ホスピスや緩和ケア病棟および地域における在宅緩和ケア等に従事する、質の高いドクターが不足している。このような現状を踏まえ、ホスピス緩和ケアの専門ドクターを育成することを目的とする。

方法は、笹川記念保健協力財団の「ホスピス緩和ケアドクター養成研究」事業を通じて、西群馬病院緩和ケア病棟で1年間（2012年5月1日～2013年4月30日）、入院患者を指導医の下で担当医として受け持つことを通じてホスピス緩和ケアを実践することである。

II.　内容・実施経過

当院緩和ケア病棟における研修は、下記の週間スケジュールに従って行った。主に病棟業務が中心で、指導医と一緒に入院患者を受け持ちながら、ホスピス緩和ケアにおける知識・技術・態度の習得を目指した。

以下に、[週間スケジュール]と[到達目標]を示す。

[週間スケジュール]

	月	火	水	木	金
午前	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
午後	病棟業務	病棟業務 病棟カンファレンス	病棟業務	病棟業務 緩和ケアチーム	病棟業務

[到達目標]

1　ホスピス･緩和ケアスタッフの一員として患者、家族、チームメンバーや他の診療科とも適切なコミュニケーションをとることができる。

2　痛みを全人的苦痛（total pain）として理解し、身体的だけでなく、心理的、社会的、霊的（spiritual）に把握できる。

3　医学的、専門的判断や技術を基に、患者や家族の価値観を重視した症状マネジメントを行うことができる。

4　心理的反応、コミュニケーション技術、社会的経済的問題の理解と援助、家族の問題、死別による悲嘆反応、自分自身およびスタッフの心理的ケア等の重要性に十分配慮した対応をすることができる。

5　患者の霊的苦悩への対応の重要性を認識し、適切な援助をすることができる。
6　医療現場における倫理的側面の持つ重要性を認識し、適切な対応ができる。
7　チーム医療の重要性と難しさを理解しチームの一員として働くことができる。
8　行政、法的、医療経済的問題に対して適切に対応することができたる。

PEACE プロジェクトの緩和ケアの基本教育に関する指導者研修会に参加し、群馬県内の緩和ケア研修会においてファシリテーターとして参加した。また、日本緩和医療学会の参加や、群馬緩和医療研究会で発表を行った。研究会での発表演題は以下の 2 演題。

- 純粋オコシコドン注射剤（オキファスト®）の登場により今後予測される治療の変化について（第 26 回群馬緩和医療研究会　2012,9　群馬）
- 過去 5 年間の患者動向から考える西群馬病院緩和ケア病棟の役割（第 27 回群馬緩和医療研究会　2013,2　群馬）

III.　成果

1 年間で約 100 名の入院患者に対して担当医として関わり、ホスピス緩和ケアドクターとして、必要な知識・技術・態度を身に付けられたと考える。また、到達目標に掲げていた内容についても概ね達成できたと考える。

高橋医師は、患者と家族に真摯に向き合い、誠実に対応する態度が評価できた。総合診療科医ならではの幅広い知識を持ち、症状診断学や治療学に優れた医師である。がんは全身病でもあるため、総合診療科医としての視点が今後も役立つものと思われる。患者とのコミュニケーションに最初は苦労していたが、研修期間中に日本サイコオンコロジー学会主催のコミュニケーション技術研修会に参加し、患者や家族へ傾聴する姿勢が向上した。また、良質なホスピス・緩和ケアを提供できるよう、緩和ケア医としての基本的な知識、技術、態度を身につけ、患者・家族の苦悩をトータルペインとして捉えることができるようになった。

今後、研鑽を続けていけば、ホスピス緩和ケアドクターとして期待できる医師になると思われる。

2013 年度以降の勤務については、高橋医師の希望によって、西群馬病院緩和ケア病棟の専従医師として、従事する予定である。